



クローバー作業所 新年会



伊瀬谷さん 長い間 本当におつかれさまでした

TSK

きりふくろ



No.73

発行：東北障害者団体定期刊行物協会 〒980-0874 宮城県仙台市青葉区角五郎 1-12-6
編集：社会福祉法人求道舎 〒039-2516 青森県上北郡七戸町字舘野 32-15
TEL：0176-62-3631 FAX：0176-62-3694 E-mail：kyudosya@ruby.ocn.ne.jp
ホームページ：http://www.kyudosya.jp

キリストに向かつての成長

大三沢教会牧師 澤橋 登



むしろ、愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、頭であるキリストに向かつて成長していきます。エフェソの信徒への手紙 4 章 15 節

私は、教会の牧師としての道が与えられる前、約四十年間中学校の教師として働きました。学校の教師と教会の牧師とに共通する事に、人の成長に関わることがあると思います。そして、その成長にとって最も大切なことは、一人一人に与えられている個性や賜物を大切にし、その人と共に歩んでいくことだと思っています。

そのことを経験によって学んだのは、私が三十五歳の時、英語の教師として米国で研修を受けた時でした。前半の三ヶ月はワシントン州の大学で語学研修を受け、後半の三ヶ月はボストン大学で、その大学院

生たちと一緒に授業を受けました。ボストンで私が選んだ授業は異文化理解で、米国で生活するいろいろな国々からの移民が、生活の中で経験するトラブル等の問題を読み、その原因や解決策を話し合う内容でした。

その授業を受け持つ女性の教授は、「私は指導者（ティーチャー）ではなく学習の促進者（ファシリテーター）です」と、最初の授業の時に話し、その姿勢で授業を導いていました。一人一人の経験を授業に活かし、それぞれのグループの調査の報告を聞き、一緒に野外調査に出かけたりしました。

あの学習の促進者（ファシリテーター）という言葉は、その後の教師としての仕事のテーマになりました。そのように、あの六ヶ月間の研修はその後の私の仕事や生き方に大きな影響を与える大切な経験となりました。

今、教会の牧師としてのあのファシリテーターという言葉を抑え直すと、キリストの愛に根ざして共に歩むということだと思います。今の時代は、教会の伝道が容易に進み成長

する状況ではありません。むしろ、困難な課題に囲まれ、少子高齢化や経済的悪化の中で、キリストの福音を伝える働きを工夫して進めなければなりません。

昨年十二月の初め、三沢市内の三つの教会が協力して市民クリスマススを行いました。一年前にゲストの演奏家を迎えて行った時は五十名の参加者が与えられましたから、今回は七十名を目標にしました。でも、実際は約半数の参加者数にとどまり、後の反省会で落胆の声が上がりました。参加者が少なかった理由としては、今回はゲストを招かずに自分たち自前の演奏や賛美を中心に行ったことが影響していると思います。その分、それぞれの教会がどれだけ伝道できるかが問われていたのだと思います。

今後の方向としては、まずそれぞれの教会が伝道活動を見直すことから始めることになります。その時に大切になるのが「愛に根ざして真理を語る」ことではないでしょうか。キリストの愛に根ざして、福音を伝えるのです。「キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さ」という言葉が、同じ手紙の中に使われていますが、私たちはキリストの愛の豊かさ、その恵みの充滿を教会生活や信仰生活の中で与えられることを願っています。その思いを周りの人々に

伝えていくことから伝道が始まります。

求道舎の働きでも、利用者一人一人の個性に寄り添うことで、その成長が促されていきます。その働きを通して、キリストの愛がこの社会の中で実を結び、求道舎の成長に繋がると思っています。

この働きは、簡単に成果を上げたり、成長したりしていくものではないことも、求道舎の評議員会で学んでいます。しかし、私たちの限りある小さな知恵と力を、キリストの愛が成長させて用いてくださいます。

この社会の社会福祉が十分に機能していなくても、キリストの愛がその課題を乗り越え、成長を与えてくれることを信じています。求道舎の今後の歩みが、あらゆる面で、頭であるキリストに向かつて成長していくことを期待しています。



キャロリングの様子

グループホーム クローバーの開設に当たって

理事長 小原義夫

野辺地町枇杷野に、念願のグループホームクローバーが完成しました。昨年の11月1日には献所式が行われました。「献所」という言葉は、こういう場合に一般的に使われる言葉とは違いますが、意味するところは、神様の御業（みわざ）のために献（ささ）げる、ということことです。求道舎でわれわれがしていることは、あくまで助けを必要としている人たちへの献身であって、事業利益を追求するものではありません。神様の望まれる道が、どの方向にあるのか、私たちは自分たちの為すところが、神様によって祝福されるのか、そうでないのか、によって判断するしかありません。正に



「人の心には多くの計らいがある。神のみ旨のみが実現する。（箴言19章21節）」
なので。

この意味から、グループホームクローバーの事業は、神様の望まれる事業であることに疑いがありません。この事業を誠実に遂行して参りましょう。次に献所式において、私から神様に申し上げた献所の辞を掲げておきます。

献所の辞

今から37年前となる1987年に、故中津徳平氏が岩手のカナンの園、三愛学舎から七戸に戻られて、自前の障害者支援を始めたのは、徳平氏が72歳の時でした。大方の年配者であれば、人生の一仕事を終えられて悠々自適の生活に入られるのがごく普通のご年齢です。氏にとつては72歳も青春時代だったのではないかと思う時、人の心のあり方について深く学ばせられる思いです。その時に落とされた「一粒の種」が、現在では、七戸町に障害者²⁶名が通う通所施設「おおばこ」として育ち、定員6名の宿泊型施設「たんぽぽ」を生み、さらに野辺地町に障害者33名が通う通所施設「クローバー」を設けるに至っています。そして本日、関係する方々の予てからの強い希望でありました野辺地町に於ける障害者向けの宿泊型施設「グループホームクローバー」が開設できる運びとなりました。20年を越える関係者の夢が現実のものとなりましたことを、皆さまと一緒に喜びたいと思います。

本日ご列席いただいた方々は勿論のこと、本当に多くの支援者の方々に助けられての事業でございました。年々の全国の支援者からのご寄付・献金はコツコツと蓄えられて

約1000万円近くになり、切りつめた経営により、年々の事業差額も3000万円ほど蓄えることができました。国策の福祉医療機構からの借入金4000万円を加えて総額、かれこれ9000万円の事業となつていきます。設計、建設に携わつて下さった会社の方々、立派な建物をありがとうございました。職員の頑張りも相当なものでした。ここに、関係された全ての方々に感謝の意を表したいと思います。

そして、この大きな事業を立ち上げさせてくださった天におられる神様、あなたの大いなる恵みに感謝申し上げます。「最も小さき者にしたのは、わたしにしたのである。」と神は言われます。この導きに從つて、このグループホームクローバーの事業を誠実に遂行して参ります。私どもに、あなたの御守りと導きが常にございますように。



おおばこ作業所

【クリスマス礼拝】



七戸教会でクリスマス礼拝を行いました。昨年度は、流行のウィルスのせいで参加者が少なく寂しかったですが、今年度は無事にみんなで楽しむことができました。利用者さんのハンドベル演奏や手話を用いた合唱は、練習より上手にできました。職員の手ハンドベル演奏では、演奏途中に謎の静寂があったとか。

【健康診断】

毎年行っ、年1回の健康診断。検診車の中で行う心電図検査やレントゲン検査、視力検査や注射器を使つての採血検査。いつもと違う雰囲気の中、数日前からそろそろする方もいますが、当日はみんな落ち着いて検査することができました。



【農福連携作業】



農家の沼山直人さんの作業場で、じゃがいもの箱作りと運搬の作業を3日間行いました。JAゆうき青森で毎年行っている、大根箱詰め作業の手伝いの経験が活かされましたね。



【落花生】

今年度は取れたて落花生を塩ゆでした、「ゆで落花生」を冷凍で販売しています。また、おおばこ作業所親の会などからのご寄付のおかげで焙煎機を購入

し、煎りたての「落花生」をお届けできるようになりました。

ぬる落花生（ピーナッツバター）も好評販売中です。

ご注文は、おおばこ作業所までお願いします。道の駅しちのへでも販売中です。



クローバー作業所

【ハロウィーン＆新年会】

毎年、秋には利用者レクとしてハロウィーンフェス、冬には新年会を行っています。今年度は今までよりもバリエーションアップ!! ハロウィーンレクでは、新たなゲームに射的を取り入れ、目玉イェントとして棒パンを焼いて、楽しく美味しくお食事をしました。



新年会では、毎年恒例のビンゴ大会に加え、クローバー開運神社でのお参り・おみくじや福笑いをして、新年をお祝いしました。そして、昼食には豚汁と鶏めしが振る舞われました。

毎回レクの後には利用者さんから、「楽しかったよ。」というお声を頂くのですが、2025年のレクも楽しんでもらえるように、職員一同で一皮も、二皮もむけた利用者レクを企画していきたいと思っています。

【調理実習】

クローバー作業所では、土曜開所日を利用して調理実習を不定期に行っています。今年度は、9月と11月に各1回、合計2回の調理実習を行いました。1回目の調理実習ではシチュー作り、2回目はキーマカレー作りをしました。皮むき・切る・煮る・ちぎるなどの調理をみんなで協力して行い、2回とも大成功の調理実習でした。特に、キーマカレー作りの際は便利な調理器・ぶんぶんチョップパーを使用して玉ねぎをみじん切りにしたり、食べる機会が少ないと思われるナンを食してもらいました。利用者さんには、「こんな



便利な道具があるのか。」とか「食べた事がなかったけど、食べてみたら美味しい。」という新しい発見や経験をしてもらえたと思います。

職員紹介

◎向中野 咲美さん

（おおばこ作業所）



8月より生活支援員として勤務しております向中野咲美です。にんにくや長芋の皮むき作業では、重い物を一緒に持ってくれたり、わからない所は親切に教えてくれたりと、利用者さんに助けられな

から、楽しい毎日です。みなさんがケガ等せず安全に過ごせるよう努めていきたいと思えます。どうぞよろしく願います。

伊瀬谷さん お疲れさまでした

長年にわたって求道舎を支えてくれた伊瀬谷秀史さんが、10月末日で再雇用期間が終了し、退職の運びとなりました。11月には利用者・保護者のみなさんとお疲れ様会を開催しました。30年以上も求道舎のため、利用者さんのために頑張ってくれた伊瀬

谷さん。この機関誌作成も、最後まで尽力いただきました。長い間本当にお疲れさまでした。



最後はアーチで。



最後は笑顔で。

グループホーム クローバー 完成しました！



野辺地町枇杷野地区に建設だったグループホームが9月末日、無事に完成いたしました。

地域の方々を始め、本当に多くの皆さまのご支援、ご協力のおかげでここまで辿り着くことができました。11月には献所式が行われ、野辺地町の野村町長にもお越し頂きました。この広報誌が皆様のお手元に届く頃には、運営も開始しております。今後とも、温かく見守って下されば幸いです。



社会福祉法人求道舎

◎七戸町

- ・おおばこ作業所（就労継続支援B型）
- ・グループホームたんぼぼ

◎野辺地町

- ・クローバー作業所（就労継続支援B型）
- ・生活介護事業所クローバー
- ・相談支援事業所クローバー
- ・グループホームクローバー

編集後記

▼「支援には正解が無い」と聞いたことがあります。そこが難しい所でもあり、楽しい所でもあると。▼コンポタージュがおいしい季節になりました。自販機で買った際、コーンを最後の一粒まで飲み切るには、缶の底を叩くのが正解だと聞いたことがあります。いざ実践。上を向き、缶底を叩くと、最後の一粒がのどの奥へ行き、むせ込む始末。自分の欲深さに反省。コンポタージュにも正解はありません。（中津 一洋）